

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク  
第8期（2018年度）事業計画書

## I. 運営方針

第8期（2018年度）は「女性活躍推進」「ママ子ども支援」「内職コーディネート」「コミュニティ形成支援」「石巻に恋しちゃった」「コワーキングスペース運営」「復興コーディネート事業」「グッズ販売」の9つの事業を実施する。

「女性活躍支援」事業では、昨年より実施中の子育て中の女性を対象とした就職支援事業を今年度も実施、昨年度末に実施した女性の雇用に関するアンケート結果をもとに、女性の就職意欲を高めるためのセミナーや、女性の雇用に関心ある企業を集めた就職説明会などを開催する。また、子育て中の女性による、地元の社会的企業でのインターンシップ事業も継続を予定しており、地元NPO等による復興まちづくりに女性の力を活かしてもらう機会とともに、地元女性らに、地域課題と自身のキャリアについて見つめ直してもらうきっかけとする。

Eyes for Future by ランコムやノーバディズパーフェクトプログラムといった、地域の女性を対象とした人材育成プログラムは今年度も実施し、同時に地域で継続していくための仕組みづくりを行う。

昨年第10回を終了した「石巻に恋しちゃった」（以下石恋）事業については、本年度はこれまで発掘・育成してきた地域の達人たちと、講師を探す教育機関等とをマッチングさせる「石恋博覧会」を中心に実施する。

仮設住宅や復興公営住宅でのコミュニティ形成支援事業では、上記石恋達人等を講師として招聘し、住民参画型のサロンやイベントを開催するほか、被災者との交流やイベント実施を通じて、被災地・被災者の心の復興に貢献したいという個人やグループと、住民のニーズとをコーディネートし、住民とボランティアとの心の通い合いを築くとともに、震災の風化防止を目指す。

コワーキングスペース運営事業は、昨年度までの宮城県からの委託が終了し、本年度1年間は石巻市からの委託事業として実施する。委託事業終了後を見据え、今後の起業支援事業やこれまで支援してきた事業者たちへのサポート方法について、検討していく。

発災から7年が経過し、復興10年計画の再生期が終了、今年度から発展期へと移行する。地域の復興状況にも変化が見られ、市内の仮設住宅は今年度で終了、復興公営住宅や地域の様々な施設も本年度中には完成を予定している。これまでも当団体は、地域の変化や内部環境の移り変わりに合わせて、活動の形を柔軟に変化させてきたが、本年度を含めてあと3年の復興期間のうちに、より自立的な形へと舵を切られるよう、活動をシフトチェンジしていく。

## II. 事業計画

(別紙 2)

## III. 組織の運営に関する事項

### 1. 総会の開催 (2018年5月末)

2017年度事業報告について

### 2. 理事会の開催 (2018年5月末)

2018年度事業計画について

### 3. その他会議および研修について

管理会計会議（事務局長、担当税理士）（月1回）

スタッフ全体ミーティング（スタッフ全員）（月1回）

事務局会議（代表理事、副代表理事、事務局長、事務局次長）（月1回以上）

スタッフ全体会議（年3回）

## IV. 事務局体制について

(方針1)：団体が3年後にも健全に経営されており、その後も持続可能な状態にあるよう経営を効率化する。

### 【具体的な取り組み】

- ・個人や企業からの寄付募集に力を入れる。
- ・事務局会議の実施。
- ・赤字の解消に向けた新規事業の立ち上げ。

(方針2)：団体が持続可能な組織である為にスタッフ一人一人が育成され、その役割を理解し、担える状態になっている。

### 【具体的な取り組み】

- ・各事業担当チームによるプロジェクトマネジメントと予実管理。
- ・組織内の構造を整理する。（役割分担・整理など）
- ・規約や評価制度などの仕組みづくりと、働く意欲の醸成。
- ・各事業内容などを見極め、最適な人員配置がなされ、各事業が効率よく回る状態を目指す。
- ・従業員との定期面談を行う（年1回）。
- ・給与制度を見直す。
- ・組織運営の計画とスケジュールを立てる。